函館 まちあるきマップ

ひと 18

新島襄ヒストリート

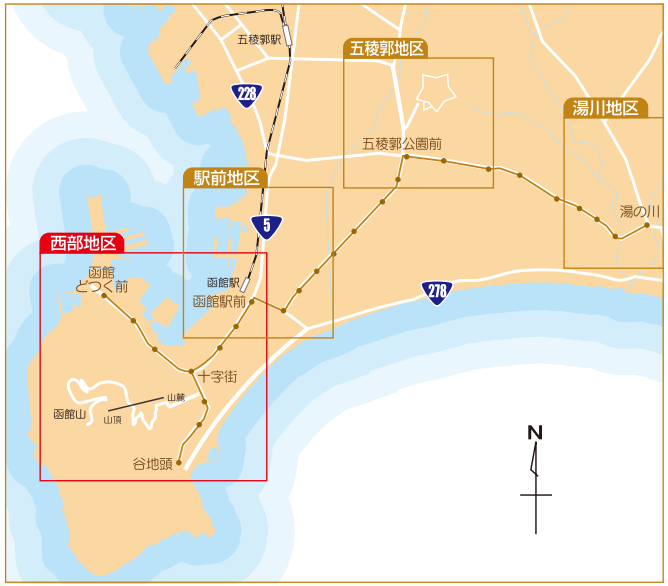
～国禁を破り命がけの渡米！新島襄を支えた函館人～

所要時間 140分　距離 4.7km　消費カロリー 420kcal

地域でつくる小さな旅 優秀プログラム

- 新島襄ブロンズ像
- 新島襄海外渡航碑
- 沖之口役所跡
- 箱館丸
- 弁天岬台場跡
- 東本願寺函館別院船見支院
- 鯨族供養塔
- 旧旅籠町界隈（きゅうはたごちょうかいわい）
- 山上大神宮（やまのうえだいじんぐう）
- 函館ハリストス正教会

函館全体エリアマップ



西部地区

スタート地点までのアクセス

JR函館駅から1.7km（徒歩25分）
市電（函館駅前より函館どつく前行き）7分

函館 知ってる？ 知ってる？

函館の坂～幸坂～

明治8年（1875）、坂下の港岸を埋め立ててできた幸町の誕生とともに、将来の幸福を祈願して「幸坂」の名称が付けられました。この坂に山上大神宮があり、神明社と呼ばれていたことから「神明坂」とも呼ばれていました。また、この坂の周辺にはムジナがいたという伝説があり、この坂にあった高竜寺が移転する際、そのムジナが荷物運びを手伝ったという話も残されています。坂の途中にある「旧ロシア領事館」あたりは急勾配となっており、上ることが大変な分、他の坂とはまた異なった景色を眺めることができます。特に天気の良い日がオススメ！

函館市電路線図

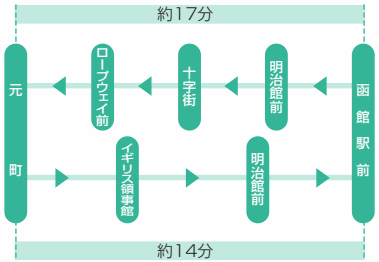
湯の川～十字街間は6分間隔で運転しています。

乗車料金のお支払いには nimoca, Kitaca, Suica, など各種交通系 IC カードがご利用いただけます。

お得な！ **市電1日乗車券販売中！** 大人600円・小人300円
お求めは車内のほか、沿線のコンビニ、ホテルなどでどうぞ！

[函館市企業局] 函館市駒場町15番1号 TEL.0138-32-1730
https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/bunya/hakodateshiden/
ケータイから各電停の時刻表も見られる！

「元町・ベイエリア周遊号」 元町観光にとっても便利な循環バス（バス停は主な停留所を記載）
「元町・ベイエリア周遊号」をご利用下さい。



大人210円・小人110円

函館バス **1日乗り放題券 バス車内にて販売中！**
大人800円・小人400円

[函館バス株式会社]
函館営業所／函館市高盛町10番1号
TEL.0138-51-3135

函館市公式 観光情報サイト "はこぶら"
https://www.hakobura.jp/

フェスティバルタウンはこだてサイト
函館イベントガイド HAKODATE EVENT GUIDE
https://event.hakobura.jp/

発行・お問合せ先
HAKODATE 函館市観光部 〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号 TEL.0138-21-3383
（2020年1月発行）

新島襄ヒストリート ～国禁を破り命がけの渡米!新島襄を支えた函館人～

所要時間 140分　距離 4.7km　消費カロリー 420kcal　※消費カロリーはおおよその目安です。

スタート! 末広町電停（函館駅前から1.7km 市電／7分 徒歩／25分）
250m 5分 → ① 新島襄ブロンズ像 ※工事中
450m 8分 → ② 新島襄海外渡航碑
250m 5分 → 沖之口役所跡
150m 3分 → ③ 箱館丸
650m 11分 → ④ 弁天岬台場跡
620m 11分 → 東本願寺函館別院船見支院
40m 1分 → 鯨族供養塔
200m 4分 → ⑤ 旧旅籠町界隈
480m 8分 → ⑥ 山上大神宮
1,400m 24分 → ⑦ 函館ハリストス正教会　ゴール!!

境内には寄進された貴重な遺物が多く、古くから海の守護神として地元漁業者のみならず、松前をはじめ北陸、大阪などの商人の信仰を得ていたことがわかります。

船入澗船防波堤

防波堤の設計は、札幌農学校第2期生の廣井勇博士によるもの。クラーク博士が札幌農学校教頭として赴任したきっかけは、新島襄の働きかけがあったからです。

弥生坂を上がって、右に曲がると明治2年（1869）の箱館戦争で戦死した新政府海軍慰霊の墓所があります。碑の石は豪邸「高田屋御殿」の庭園に据えられていた「高田屋の亀石」と呼ばれていた石の一部です。

己巳役海軍戦死碑

夏には階段を活かしたステージでイベントが催されます。

洋風・和風・和洋折衷の建築物が立ち並ぶ函館らしい通りです。土産店や喫茶店なども立ち並んでいます。

海を見通す八幡坂はドラマや映画の舞台として有名な坂です。

「チャチャ」とはアイヌ語で「おじいさん」を指し、おじいさんのように腰を曲げて歩くほど急な坂という意味でこの名前がついたそうです。

新島襄の脱国を手助けした福士卯之吉（福士成豊）の実父続豊治の親戚にあたる。

① 新島襄ブロンズ像 ※工事中

脱国時の新島襄の服装がわかる。
※2018年10月～2020年3月（予定）整備工事に伴い一時撤去

② 新島襄海外渡航碑

新島襄が脱国後、上海で作った漢詩が自筆の碑文として刻まれている。異国への夢と故郷を思う気持ちの間で揺れる心情があふれる内容である。

③ 箱館丸

安政4年（1857）新島襄の脱国を手助けした福士卯之吉（福士成豊）とその実父続豊治が造った日本初の西洋式帆船。現在の箱館丸は昭和63年（1988）に復元されたもの。

④ 弁天岬台場跡

箱館奉行支配諸術調所教授役武田斐三郎が設計した台場跡。新島襄が箱館に来る目的の一つは、武田斐三郎のもとで学ぶことであった。※写真提供／函館市中央図書館

⑤ 旧旅籠町界隈（きゅうはたごちょうかいわい）

このあたりに、新島襄・澤辺琢磨・福士卯之吉らが、酒を酌み交わした茶屋があった。

⑥ 山上大神宮（やまのうえだいじんぐう）

新島襄の友人である渡辺琢磨（坂本龍馬の親戚）が、神職を務めた神社。

⑦ 函館ハリストス正教会

山上大神宮神職澤辺琢磨が、異教を広める司祭ニコライを叩き切ると息巻いて押しかけた教会。その後、ニコライの教えに心酔し、ニコライに日本語を教授する代償として、箱館にやってきた新島襄を司祭宿舎に下宿させた。

新島襄（1843～1890）

明治時代を代表する教育者。鎖国の禁を破ってでも海外見聞をしたいという強い情熱を持ち、元治元年（1864）6月14日夜、箱館大町築島の波止場から1隻の小舟で沖に出た後、湾内に停泊するアメリカ商船ベルリン号にたどり着き、密出国に成功する。後に、同志社英学校（現同志社大学）を創設。

※写真提供／函館市中央図書館

福士卯之吉（1838～1922）

天保9年（1838）日本初の西洋式帆船「箱館丸」を建造した船大工続豊治の子として函館に生まれる。のちに成豊（なりとよ）と改名。回船業福士長松の養子となるが、実父豊治について造船技術を学んだ後、さらなる高度技術を習得するため、イギリス人経営の商会に5年間勤務し語学を身につけた。この間に新島襄と出会い、その後の米国への脱出を支援した。